

LION news

新春祈願・新春例会 第 1405 回例会



新春例会終了し、会場準備のため一時ロビーで待機、準備完了後、各自座席表にしたがって着席し、中村計画委員長の司会により新春例会懇親会がスタートしました。まずはオープニングアトラクションとして萌雅会による雅楽演奏を3曲鑑賞しました。



今年は天皇陛下の譲位、即位がある新年に雅楽が聞けて心が清く洗われました。開会挨拶を年男で入会年数が一番長い L 宮田 吉弘より、「今年は消費税増税、事業継承税の要件緩和などの変革の年である。」と為になる挨拶を頂きました。引続き L 野村第一副会長より、ウィーサーブの発声で会食・歓談が始まり、L 稲葉氏、L 作田氏より美味しいお酒の差し入れを頂きほろ酔いになりました。



懇親会の中盤になり、今月のお誕生日・結婚記念日を迎えられた方々の紹介が行われ、その後長

寿ならびに年男を迎えられたライオンの紹介があり内山会長より記念品が贈呈されました。代表して L 久保氏より、これまでのライオンズ活動の振り返りと健康の秘訣、ゴルフスコアの話頂きました。また美声で1曲聴かせていただきました。会食・歓談の時間が進み、テーブルツイスター L 浦田氏の登場で、新年や日本にまつわるクイズで会場がもりあがりました。中締めは年男最年少の L 寺井、ライオンズロー発で締めて皆さん また会う日までを歌い 懇親会は閉会しました。

(記事 L. 寺井)



正座はいつから

今は教育現場では体罰、昔は行動制限。

もともと正座が生まれたのは室町時代。当時の茶道の発展と共に生まれたとされている。ただ正座を行うのは、この茶道の時代、神前・仏前の礼拝など特別な儀式の時に限られていたようだ。江戸時代になると、まず徳川家で正座が作法として取り入れられた。おそらく徳川家の正式作法の一つ、小笠原流の影響が大きかったのだと思われる。そして将軍と謁見する大名の間で正座の様式が取り入れられることになる。正座によって行動を制限した。江戸中期以降、畳が徐々に庶民の間に普及していくのにもなって、正座も広がっていくこととなる。

江戸中期より現在、正座の本格的な歴史は約400年。それ以前は男性も女性もみな、ごく普通に立てひざや胡座(あぐら)だったのである。

ちなみに、約400年の歴史しかない正座が、正しく座ると書く、つまり最も正しい座り方と呼び名のうえでも認定されたのは、戦前、修身の教科書の中で正座という言葉が使われたのが最初だといわれている。それまでは端座(たんざ)などと呼ばれていた。言葉としては、正座はわずか60~70年の歴史しかないことになる。

編集後記 今年の祈願は入会してから経験したことがない暖かさ、来年は私も年男、ついに還暦。50代を満喫したいと思う。 担当 L. 北川 π